



資料 1

諮 問 第 1 号
令和3年12月22日

庄内町学校適正規模・適正配置審議会長 殿

庄内町教育委員会
教育長 佐藤 真 哉



諮 問 書

庄内町学校適正規模・適正配置審議会条例（令和3年庄内町条例第14号）第2条の規定に基づき、下記のとおり諮問します。

記

諮 問 事 項 庄内町立小学校及び中学校の適正規模及び適正配置に関する
方針の策定について

○庄内町学校適正規模・適正配置審議会条例

令和3年3月16日 庄内町条例第14号

(設置)

第1条 地方自治法（昭和22年法律第67号）第138条の4第3項及び第202条の3第1項の規定により、庄内町立小学校及び中学校（次条及び第3条において「学校」という。）の適正規模及び適正配置に関する方針を策定するため、庄内町教育委員会（以下「教育委員会」という。）に庄内町学校適正規模・適正配置審議会（以下「審議会」という。）を置く。

(所掌事務)

第2条 審議会は、教育委員会の諮問に応じ、次に掲げる事項について調査及び審議を行い、答申するものとする。

- (1) 学校の適正規模に関すること。
- (2) 学校の適正配置に関すること。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める事項に関すること。

(組織)

第3条 審議会は、委員17人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから町長が委嘱し、又は任命する。

- (1) 未就学児又は学校の児童若しくは生徒の保護者 4人
- (2) 保育所、幼稚園又は学校を代表する者 4人
- (3) 学校運営協議会の委員 6人
- (4) 識見を有する者 2人以内
- (5) 公募による者 1人以内

(会長)

第4条 審議会に会長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 会長は、会務を総理し、審議会を代表する。

3 会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、あらかじめ会長の指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第5条 審議会の会議は、会長が招集する。

2 会長は、会議の議長となる。

3 審議会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。

4 審議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取等)

第6条 会長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させて意見を聴き、又は必要な説明若しくは資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第7条 審議会の庶務は、教育委員会事務局において処理する。

(委任)

第8条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

この条例は、令和3年4月1日から施行する。

学校適正規模・適正配置審議会委員名簿（令和3年度）

◎会長 ○会長職務代理者

保護者	保育園	河村竹宏	興野
	幼稚園	佐藤浩紀	馬場
	小学校	早坂桂	荒鍋
	中学校	門脇伸	生繰沢
学校等代表	保育園	門脇良至	余日保育園長
	幼稚園	藤井真紀子	狩川幼稚園長
	小学校	松田透	余日第三小学校長
	中学校	佐藤義徳	余日中学校長
学校運営協議会	一小	佐藤一典	猿田町
	二小	齋藤慎一郎	上朝丸
	三小	○ 佐藤彰	廿六木
	四小	佐藤一	西袋
	立川	富樫豊一	木ノ沢
	余中	三浦志保	福島
識見	◎	菅原弘昭	松陽
		菅野由香里	廿六木
公募		齋藤裕子	南興屋

町教育委員会

教育長	佐藤真哉
教育課長	佐藤秀樹
教育課 課長補佐兼教育総務係長	佐藤正芳
教育課 指導主事	高橋一枝
教育課 指導主事	富山裕二
教育課 主査兼学校教育係長	渡部恵子
教育課 主査兼教育施設係長	日下部洋一

学校適正規模・適正配置審議会委員名簿（令和4年度）

◎会長 ○会長職務代理者 ※新委員

保護者	保育園	河村竹宏	興野
	幼稚園	佐藤浩紀	馬場
	小学校	※齋藤透	片倉
	中学校	門脇伸	生繰沢
学校等代表	保育園	門脇良至	余目保育園長
	幼稚園	※丸屋恭子	余目第二幼稚園長
	小学校	※後藤克人	余目第二小学校長
	中学校	佐藤義徳	余目中学校長
学校運営協議会	一小	佐藤一典	猿田町
	二小	齋藤慎一郎	上朝丸
	三小	○佐藤彰	廿六木
	四小	佐藤一	西袋
	立川	富樫豊一	木ノ沢
	余中	三浦志保	福島
識見	◎菅原弘昭	松陽	
	菅野由香里	廿六木	
公募	齋藤裕子	南興屋	

町教育委員会

教育長	佐藤真哉
教育長第一職務代理者	梅木均
教育長第二職務代理者	太田ひろみ
教育委員	齋藤雅子
教育委員	飯淵義晃

教育課長	佐藤秀樹
課長補佐兼教育総務係長	佐藤正芳
指導主事	齋藤希望
指導主事	富山裕二
主査兼学校教育係長	渡部恵子
主査兼教育施設係長	日下部洋一

学校適正規模・適正配置審議会委員名簿（令和5年度）

◎会長 ○会長職務代理者 ※新委員

保護者	保育園	河 村 竹 宏	興野
	幼稚園	佐 藤 浩 紀	馬場
	小学校	齋 藤 透	片倉
	中学校	門 脇 伸	生繰沢
学校等代表	保育園	門 脇 良 至	余目保育園長
	幼稚園	丸 屋 恭 子	余目第二幼稚園長
	小学校	※ 齋 藤 正 典	余目第三小学校長 (前任者退職のため交代)
	中学校	佐 藤 義 徳	余目中学校長
学校運営協議会 (昨年度委員も含む)	一小	佐 藤 一 典	猿田町
	二小	齋 藤 慎 一 郎	上朝丸
	三小	○ 佐 藤 彰	廿六木
	四小	佐 藤 一	西袋
	立川	富 樫 豊 一	木ノ沢
	余中	三 浦 志 保	福島
識見	◎ 菅 原 弘 昭	松陽	
	菅 野 由 香 里	廿六木	
公募	齋 藤 裕 子	南興屋	

町教育委員会

教育長	佐 藤 真 哉
教育長第一職務代理者	梅 木 均
教育長第二職務代理者	太 田 ひろみ
教育委員	齊 藤 雅 子
教育委員	飯 淵 義 晃

教育課長	佐 藤 秀 樹
課長補佐兼教育施設係長	菅 原 光 博
指導主事	齋 藤 希 望
指導主事	富 山 裕 二
主査兼学校教育係長	渡 部 恵 子
教育総務係長	渡 部 進 也

地域意見交換会の概要について（報告）

1. 令和5年度地域意見交換会開催参加者数

学区	第一学区	第二学区	第三学区	第四学区	立川地区
開催日	8月16日（水）	8月25日（金）	8月24日（木）	8月29日（火）	8月31日（木）
開催場所	第一まちづくりセンター	第二まちづくりセンター	第三まちづくりセンター	第四まちづくりセンター	狩川まちづくりセンター
参加者数	14名	22名	20名	35名	29名

2. 意見

○【意見】施設に関すること

統合した小学校が余目地区の中心に建てられたら、立谷沢の子どもたちはほんとに大変になる。中心的な四小付近への建設を望む。	立川地域
⇒ 意見として、審議会で報告する。	
山形市で新しい小学校を造ったら、周辺の分譲が進み児童数が増え、教室が足りなくなるような事態が起きているという話を聞いた。庄内町も人口増加の起爆剤となるよう、場所の選定については、教育関係者だけでなく、町の開発も絡ませて進めていった方がいいのではないか。	第三学区
⇒ 小学校をどこに建てるか、場所の選定などについては、具体的に何も話し合われていない。ご意見ということで今後の進め方に活かさせていただく。	
今の余目中学校を小学校にして、一小、二小、三小の校舎として利用してはどうか。	第四学区
⇒ 仮に一小、二小、三小を統合した場合は、1学年3学級、もしくは、4学級と想定している。3学級の場合は、6学年で18教室必要になるが、現在の教室の使い方として、一クラスごと全員で受ける授業の他に習熟度別に分かれてやる授業もあり、対応する教室が必要となる。他に特別支援学級用の教室も必要になってくるので、教室の数が足りなくなるのではないかとと思われる。細かく試算したわけではないので、試算し、審議会で報告する。	
今の余目中学校を小学校として使うことに賛成である。中学校は立川、余目、両地域の中間地点に建てることも検討してもらい。	第四学区
⇒ 審議会の中でも、検討されてきたが、さまざま比較検討した結果、既存の余目中学校を長寿命化で利用することが望ましいとしてまとまったところである。このような意見があったことを審議会で報告する。	
中学校は余目中学校を長寿命化改修して利用していくという案に賛成する。	立川地域
⇒ 意見として、審議会で報告する。	
小学校と中学校は隣合わせで建ててほしい。	第二学区
⇒ 意見として、審議会で報告する。	

○【意見】コストに関すること

小学校の学校整備について、段階を踏まず、当初より1校とした方が、経費的にも時間的にもいいのではないか。段階的移行は無駄が多い。	立川地域 第二学区
⇒ 意見として、審議会で報告する。	
3つの小学校をすべて廃校として処理するとコストがかかるので、例えば二小の既存校舎を利用して対応はできないのか。児童数が減っている中で、全部の小学校を合わせても3クラスあれば足りるのではないか。	第一学区
⇒ 学校の規模からして、敷地が足りないと考えている。審議会では、どこの場所に建設するまでは具体的なものは出ていない。意見として伺っておく。	
新しい校舎を建てる際は、メンテナンス等維持管理費がかからないような見通しをつけて造ってほしい。	第二学区
⇒ 意見として、審議会で報告する。	

○【意見】統合に関すること

<p>小学校の整備の仕方については、パターン3（一小、二小、三小を一つの学校、四小と立小を一つの学校）を望む。</p> <p>⇒ 意見として、審議会に報告する。</p>	立川地域 第四学区
<p>小学校の学区の編成について、パターン2（一小、二小、三小、四小が1校、立小が1校）か、パターン4（すべての学校が1校）を望む。</p> <p>⇒ 意見として、審議会に報告する。</p>	第四学区
<p>一小、二小、三小を一つの学校として考えているようであるが、町内の小学校の児童数のバランスを考えると、一小と三小、二小と四小と立小を一緒にした方がいいのではないか。</p> <p>⇒ 審議会の意見では、施設の安全性の確保について急がなくてはならないことから、一小、二小、三小は優先的に対応、これは1校として進めるのが望ましいという考え方になっている。いただいた意見については、審議会に報告する。</p>	第一学区
<p>小学校の整備の仕方について、パターン4の町内小学校1校は大変だと思う。立川地域のことを考えないと、若い夫婦など便利のいい場所へ引っ越してしまうのではないか。</p> <p>⇒ 意見として、審議会に報告する。</p>	立川地域
<p>中学校の統合を最優先で進めるべきだ。現在の立川中学校の状況は、健全な教育環境に置かれていない。適正規模になっていないので、中学校の統合を先に行うべきである。小学校の議論は、そうこうしている間に1校でまとまるのではないか。</p> <p>立川中学校の子どもたちが、もっとバイタリティある活動ができるように環境を整えてもらいたい。</p> <p>⇒ 審議会の話し合いの中では、小学校と中学校、どちらを先に進めるべきか、まだ、具体的な意見は出ておりません。次回、審議会にこのような意見があったことを報告させていただきます。小学校については、令和11年度までの規模しかわからないので、今後どうなるか予想もつかない。ご意見としては、最初から1校とした方がいいのではないかということであったが、今後の子どもの数を実際見たうえでの判断になると思うが、意見として、審議会に報告する。</p>	立川地域 第三学区

○【意見】通学時間に関すること

<p>小学1年生の子どもが片道1時間の通学時間は酷である。</p> <p>⇒ 意見として、審議会に報告する。</p>	第二学区
<p>通学距離が30キロを超える地域も出てくる。子どもたちにとっては大きな負担になる。</p> <p>⇒ 審議会の中でも話は出ている。トイレ休憩、乗車時間の利用、登校、下校時間など最大限の配慮が必要だという意見が出ている。</p>	立川地域
<p>スクールバスで長時間かけて通う子が不登校になった際に改善するのが非常に困難だという話を聞いたことがあるが。</p> <p>⇒ 運行のやり方、経由地を減らす、最短で直接送迎するなど若干でも短縮できる工夫をしていきたい。</p>	第三学区

○【意見】スクールバスに関すること

<p>スクールバスについて、今後児童数も少なくなっていくことなどから、近い、遠い、多い、少ない関係なくすべてスクールバスでの対応をしてもらいたい。命に係わる部分である。</p> <p>⇒ 教育委員会の基本的な考え方は歩くことが基本である。歩くことで健康な体づくりができたり、登校班を組むことで上下関係を養ったり、ちょっと辛いことも経験して我慢することを身に付けたりできることなどメリットの方が大きいと考えている。そのうえで、概ね3キロ以上の集落は通年バスで対応したり、概ね2キロ以上の集落は冬期間だけバスで対応しているのが現状である。（特別な事情がある集落も該当）今後もこの考え方でいくかについては、内部で検討する。</p>	第一学区
---	------

<p>スクールバスについて、全地域対応を進めてもらいたい。歩く機会を設けるためには、集落ごとの駐車場でなくて、近いところは代表で駐車場などを設定するなど考えられるのではないか。</p>	第一学区
⇒ 意見として伺う。内部で検討する。	
<p>スクールバスだけでなく、さまざまな方法を模索してほしい。</p>	第二学区
⇒ 意見として、審議会上に報告する。	
<p>スクールバスの運行について、部活動も対応してもらいたい。余目中学校を長寿命化することで、余目地区の人にとっては異論がないと思うが、立川地区の人にとっては、いろんな思いがあると思うので、丁寧に進めていく必要があると思う。</p>	第一学区
⇒ 部活動のスクールバス対応については、部活動の地域移行について検討している組織の方で話題となっている。今後、詰めていく内容になる。	
<p>スクールバスの仕様について、長時間乗るのであれば、クッション性の高い座面にしたり、テレビモニターを設置して学習に役立てるとか、トイレが設置されているバスなどの導入も考えてみてはどうか。</p>	立川地域
⇒ 今後の検討する。	
<p>スクールバスについて、バスに乗り遅れてしまったり、体調が悪く朝はいけなかったが、昼頃から体調がよくなったとしても、学校に行くすべがないのが現状である。学校に行きやすい仕組みをつくってもらえるとありがたい。</p>	第三学区
⇒ きめ細やかな運行で、保護者の方、お子さんになるべく負担がかからないような運行、学校への行き方について検討していきたい。意見として伺う。	

○【意見】地域に関すること

<p>審議会で話し合われている内容がどうしても、余目に寄りがちな意見になっているのではないか。</p>	立川地域
⇒ 意見として、審議会上に報告する。	
<p>小学校、中学校をすべて余目の中心へもっていくと、立川に住む人がいなくなる。</p>	立川地域
⇒ 意見として、審議会上に報告する。	
<p>立川地域から小学校、中学校がなくなると人がいなくなってしまう。さまざまな施設が、町の中心地に集中していて不平等感を感じる。</p>	立川地域
⇒ 意見として、審議会上に報告する。	
<p>立川地域のことを考えると、学校など大きなものがすべて、町場の方に集中し、過疎化に拍車をかける結果となっている。余目の中心部に学校を建てるというようなことは、立谷沢方面の子どもたちの負担になる。子どもの視点も頭に入れながら進めてほしい。</p>	第四学区
⇒ 審議会の中でも話し合われてきた内容であるが、このような意見があったことは、審議会上に報告する。	
<p>小学校の場所を決める際に、町内の中間地点という話が出ているが、余目地域の町場の人はどう思うか。今までの学校統合の歴史的なところ考慮すると地域の感情的なものが絡んでくる。余目の人たちの意見も十分聞いた方がいいのではないかと心配している。</p>	立川地域
⇒ 余目地域一小、二小、三小学区で意見交換会をしてきたが、小学校の建設の場所について、町内の中間地点に建設した方がいいのではという意見は出ていなかった。このような意見が出たことを審議会上に報告する。	
<p>まちづくりのビジョンをつくるにあたって、小学校は学区割の大元である。地域づくりと小学校の在り方は深い関係にある。将来のまちづくりを考えていく場合、地域まちづくりと小学校の議論は一緒に進めていくべきでないか。</p>	第三学区
⇒ まちづくり担当課と丁寧な打合せをしながら進めていきます。	

地域と学校とのつながりは、放課後子ども教室で子どもを通じて形成していけないのではないか。	第四学区
⇒ 意見として、審議会に報告する。	

○【意見】その他

小学校が統合することに関して、小学校以外で地域でやっていること、例えば、学童とか、そちらと連携、コミュニケーションをとった形でスムーズに進むようお願いする。	第一学区
⇒ 小学校の学校の地区の再編と、現在地域づくりで行っている地域の活動は別なものと捉えている。まちづくりセンターについてはそのまま残っていくのではないかと考えている。担当課と丁寧な打合せなどして調整していく。	
今後、児童生徒数が減少していくということで計画を立てているが、もし、増えた場合、また、人口を維持できた場合のことも計画しておいた方がいいのではないか。	立川地域
⇒ 町の総合計画の人口推移にビジョンについては、さまざまな要因を加味したうえでの想定と考えている。審議会には、人口が増えた場合ということでは資料提供していなかったもので、話し合われなかった状況になる。	
幼稚園について、今は別にして考えるという話があったが、小学校と幼稚園は一緒と考えた際は、用地の選定など考慮しないといけないのではないか。	第二学区
⇒ 幼稚園については、別の組織を立て検討していく必要があると考えている。	
質の高い教育が魅力ある学校につながると思う。	第三学区
⇒ 質の高い教育については、庄内町として目指してやっていきたい。	
さまざまな個性のある子どもがいる中で、みんなが一緒に過ごせる学校にしてほしい。（支援の必要な子どもも含む）	第三学区
⇒ その子の特性を見ながら、通常学級、特別支援学級、特別支援学校などどの場で学ぶことが、その子にとって一番いいか、保護者と話し合いながら決めているところである。それぞれのメリット、デメリットもあるので、保護者に十分説明したうえで、見学などもしてもらって判断してもらって進めている。	
近代的な学校もいいが、地域として助け合いができる、人が優しいなどそういう魅力の学校を造ってほしい。	第三学区
⇒ そういうことも重点的に力が入られるよう教育目標を考えていきたい。	
子どもたちの教育が大人の都合で振り回されることがないように配慮してほしい。	立川地域
⇒ 意見として、審議会に報告する。	
若い世代、保護者となる世代の意見集約ができたらいいかと思う。	立川地域
⇒ 昨年度に実施したアンケート調査では、保護者世代を対象に回答をもらっているところであるが、地域意見交換会への参加を見ると保護者世代の参加は少なかったと思う。検討する。	
小学校の教育の過程で地域とのつながりが大切だと感じているが、通うのは子ども、実際教育を受けるのは子どもである。子どもを持つ保護者の意見を多く聞いて取り入れてもらいたい。	第二学区
⇒ 意見として、審議会に報告する。	
今回の意見交換会については、子育て世代についてはもう少し関心があるものと思っていた。情報発信をうまくして多くの人の関心が集まるように工夫してほしい。	第一学区
⇒ 情報発信は非常に大切である。より努力していく。	
致道館の受験のことを考えると中学校の人数が予想よりも減る可能性があるのではないか。	第二学区
⇒ 今年度より受験が始まる。今現在では見当がつかないので、次年度以降、将来的なことを考えていきたい。	

<p>学校に行きたくても、体調不良などでいけない子どももいる。リモートの授業をもっと活用してほしい。</p>	
<p>⇒ 現在もタブレットを活用し、リモートによる授業を受けている子どもいる。学校の様子が変わったり、学習面での不安が解消されたり、状況の改善などにもつながると考えるので、今後も進めていきたい。</p>	第三学区
<p>学童保育施設は学校施設内に設置してほしい。</p>	
<p>⇒ 担当課へ報告する。</p>	立川地域
<p>清河八郎など、地域に関する授業を取り上げ、郷土愛を育ててほしい。</p>	
<p>⇒ 教育基本目標の中で地域に関することもあるので、統合したとしても引き継いでいきたい。</p>	第四学区
<p>1年生から6年生までと一緒に給食が食べれるような広いスペースのオープnrームを希望する。</p>	
<p>⇒ このような意見があったことを次回、審議会に報告する。</p>	第三学区
<p>小学校、中学校の整備の話をする前に、第一学区の学童施設が古すぎるのでそちらを先に対応してもらいたい。</p>	
<p>⇒ 教育委員会とは別の課が担当になるが、その辺は連携をとって今後協議を進めていきたい。意見があったことを担当課に伝える。</p>	第四学区
<p>給食の無償化も進めてもらいたい。</p>	
<p>⇒ 今年度、半年間分は無償化ということで取り組んでいる。町の方でも今後、無償化に近づきよう進めていきたいとは考えている。</p>	第四学区

学校施設適正規模・適正配置検討委員会（まとめ）

1. 参加者

(1) 検討委員 16名

<敬称略>

所属機関等	氏名	所属機関等	氏名
余目中学校 PTA	加藤 智	狩川保育園保護者会	秋庭 聡
立川中学校 PTA	阿部 一道	余目中学校 PTA(母親委員)	三浦 志保
余目第一小学校 PTA	藤田 靖	余目第二小学校 PTA(母親委員)	渡部 直子
余目第二小学校 PTA	齋藤 慎一郎	余目第三小学校父兄と教師の会(母親委員)	菅野 由香里
余目第三小学校父兄と教師の会	荒木 信	前余目保育園保護者会	佐藤 勝則
余目第四小学校 PTA	齋藤 裕子	前立川小学校 PTA	森 保如
立川小学校 PTA	薄網 光彦	庄内町校長会(余目中学校)	佐藤 真哉
余目第三幼稚園保護者	齋藤 敦	庄内町校長会(第三小学校)	松田 透

(2) オブザーバー 1名

所属・役職	氏名	付記
(株)協和コンサルタンツ 仙台支店 都市計画部 計画グループリーダー	日隈 真也	老朽度調査委託先

(3) 事務局 7名

所属・役職	氏名	所属・役職	氏名
教育課 課長	佐藤 美枝	教育課 課長補佐	佐藤 正芳
教育課 指導主事	高橋 一枝	教育課 指導主事	富山 裕二
教育課 主査兼学校教育係長	渡部 恵子	教育課 教育施設係長	押切 崇寛
教育課 教育施設係主任	佐々木 一記		

2. 開催の状況

○ 第1回 令和2年7月29日(水) … 参加人数 24名

(1) 経過説明及びスケジュール

(2) 検討会の設置目的

- ① 幼稚園、学校施設の調査結果
- ② 資料説明
- ③ 質疑応答、アンケート記入

○ 第2回 令和2年8月27日(木) … 参加人数 22名

(1) 説 明

(2) グループワーク 1 回目

- ① グループA テーマ：統合をせず現学校数を維持
～ 今後の児童生徒数を見込んだ減築又は現施設の有効活用を含めて ～
- ② グループB テーマ：小学校 1 校と中学校 1 校への統廃合の検討
～ 小中一貫校の話題にふれる ～
- ③ グループC テーマ：4 小と立小の統合、1 小 2 小 3 小の統合検討
～ 中学校を含めて統廃合の枠組みを検討 ～

(3) 検討結果の発表

○ 第 3 回 令和 2 年 10 月 16 日（金） … 参加人数 20 名

(1) 説 明

(2) グループワーク 2 回目 テーマは 1 回目と同じ

(3) 検討結果の発表

○ 第 4 回 令和 2 年 12 月 4 日（金） … 参加人数 20 名

(1) 検討委員会のまとめ

3. 検討の成果

(1) 開催趣旨

本町の学校施設は、特に余目第一、第二、第三小学校の 3 校は、昭和 39 年から 41 年に建設され平成 20 年前半に耐震工事は行っているものの、建設から 50 年以上経過し、設備を含めて老朽化が進んでいる状況にあります。また、文部科学省では、平成 27 年 3 月に「文部科学省インフラ長寿命化（行動計画）」を策定し、各学校施設の管理者に対し令和 2 年度までに「長寿命化計画」を策定するよう求めています。

合併翌年の 2006 年度（平成 18 年 5 月 1 日現在）の園児・児童生徒数 2,593 人に対し、2020 年度（令和 2 年 5 月 1 日現在）には 1,714 人となり、879 人（約 34%）の減少となりました。

また、令和 2 年 3 月に改訂された庄内町人口ビジョンの年少人口を参考に、事務局においてシミュレーションした結果、2060 年度（令和 40 年度）の園児・児童生徒数は、園児 243 人、児童 730 人、生徒 365 人、合計で 1,338 人となることが想定されます。

これらの状況から、施設の老朽化と将来の園児・児童生徒数の推移を踏まえ、将来を見据えた持続可能な施設整備を図るため、まずは、児童生徒の保護者や就学児前の保護者の意見を確認するため、学校施設適正規模・適正配置検討委員会を開催することとなりました。

(2) 開催内容

① 第1回目の検討委員会では、昨年度に開催した庄内町立中学校の未来を考える懇談会の検討内容、幼稚園・小中学校の施設の現状や老朽度調査の状況を説明しました。その後、第2回目以降に行うグループワークのテーマに検討委員の意見を反映させるため、次の設問のアンケートを実施しました。

〔設問1〕子ども達にとって学校の学級数はどれぐらいが望ましいと思いますか？

〔設問2〕学校の統廃合は必要だと思いますか？

〔設問3〕あなたが描く学校像（規模・配置等の視点から）

〔設問4〕本検討会への要望

設問1のアンケート結果は、「学年1クラスの良さ」や「複式学級にならないければ現状維持」などの意見はあるものの、小学校では75%、中学校では62%に上る回答が「各学年クラス替えができる学級数」を望む結果となりました。

設問2では、「学校の統廃合が必要」という回答が87%に上りました。一方で「学校の統廃合は必要ない」との回答はなかったものの「わからない」への回答が13%ありました。その内容は「統廃合により学校がなくなってしまう寂しさ」や「2060年度の想定児童数が730人（1校あたり約150人）であれば、5校体制が維持できるのではないか」との意見となっています。

設問3の「あなたが描く学校像」に対する意見では、「小学校1校、中学校1校に統合」、「1小2小3小を統合、4小と立小の統合」、「小中一貫校」などの具体的な意見がありました。また、「小学校、幼稚園、公民館があり地域とともにある学区」、「地域とともにあり、小さくても生き生きと学べる学校」など、庄内町の特色を残して行きたいとの意見もありました。

設問4には「検討委員会の声、皆さんの声が広報等を通じて町民の方々に伝えながら進められると良いと思う」、「10年先、20年先を見据え地域の意見を取り込んだ話し合いにしていきたい」などの意見や、「この検討委員会の意見をもって保護者全体の意見と思われる」と心苦しい面もあり配慮頂きたいとの思いも寄せられました。

なお、アンケート結果の詳細は「別紙1」のとおりです。

② 第2回目の検討委員会を開催するにあたっては、アンケートの集約をもとに、実際に具体案として出された次の3つのテーマを設定し、グループワークを行いました。

〔グループA〕統廃合をせず現学校数を維持

〔グループB〕小学校1校と中学校1校への統廃合の検討

〔グループC〕4小と立小の統合、1小2小3小の統合の検討

また、グループワークに入る前に、「小中学校の必要面積・建設想定費用早見表」、「集落別児童生徒数及びスクールバス関係資料」、「庄内町の財政状況」をはじめとする「参考資料1～8」までの資料説明を行いました。各グループの構成は、検討委員の出身地区・学区

のバランスを考慮し、事務局を含め8人体制で、「1.イメージする学校のすがた」、「2.グループワークの観点」、「3.考察」、「4.参加者の感想」についての話し合いを行いました。その後、全体で検討の成果を発表しました。

- ③ 第3回目の検討委員会は、2回目に引き続き、同様のテーマでグループワークを行いました。ただし、今回は、検討委員自らが希望するグループへの参加とし、各テーマをより掘り下げたまとめの議論を行うため、「テーマの特徴（特に際立つ良さ、課題）」と「課題改善のために考えられるオプション・工夫」に重点をおいた話し合いを行いました。

また、最初に参加したグループから他のグループへの移動も可能としましたが、多く委員が移動することなく、最後まで同じテーマへの参加となりました。最後に、2回目と同様に全体で検討の成果を発表しました。

なお、グループワークでの検討結果は「別紙2」のとおりです。

(3) 検討結果

本検討委員会は、昨年度の庄内町立中学校の未来を考える懇談会のまとめに記載されている「中学校だけでなく小学校を含めた学校全体の適正規模・適正配置の検討」と「より具体的な検討を進めていくこと」を今年度の検討課題に掲げ、アンケート結果に基づき3つのテーマについて、幅広く、そして掘り下げた意見をまとめることができました。

検討を進めるにあたり、改めて、小中学校は、児童生徒の教育のための施設だけではなく、各地域のコミュニティの核としての性格を有し「地域とともにある学校づくり」が、本町の特色として根付いていることが確認できました。

また、学校は、地域の未来の担い手である子供たちを育む場でもあり、まちづくりの在り方と密接不可分であるという性格も有しているため、学校の適正規模・適正配置については、児童生徒の保護者や就学前の保護者の声を重視しつつ、地域住民の十分な理解と協力を得ながら、丁寧な議論を重ねることが大切です。

今回は、限られた回数での検討とはなりましたが、アンケートの結果や、グループワークの2回目に実施した自分が希望するテーマへの参加人数を見れば、将来にわたり持続可能な学校施設の整備にあたっては、現状の学校数を維持することよりも、委員が思い描く学校の適正規模に意見の違いは見られるものの、統廃合を望む意見が多かったことが分かります。

しかしながら、アンケート結果にもありましたが、参加した委員は代表としての立場であり、学校の適正規模・適正配置の検討は、様々な要素が絡む困難な課題であるため、地域住民の意見や学校の先生など、より広く意見を求める機会が必要です。

来年度以降は地域の代表者を加え、審議会を立ち上げるなど、広く町民の意見を反映し、今回の検討委員の生の声が、議論の土台となって生かされることを期待しまとめとします。

第1回庄内町学校施設適正規模・適正配置検討委員会 アンケート結果

【設問1】子ども達にとって学校の学級数はどれぐらいが望ましいと思いますか？

(小学校)

クラス替えができる 1学年 2～3組
1学年 2組くらい
生徒数が多ければ、2学級がベストだと思う。○小の場合は、生徒数が20人もいない学年もあるため、1学級は仕方ない。幼稚園から1クラスでくるのであれば、子供にとってはそのまま同じクラスのほうが良い
1学年 2～3クラス 1クラス30人前後の生徒数
各学年クラス替えができる教室数があればいいと思う
クラス替えができる数がほしい 1クラス40人は多いと感じる
1学年2クラス 生徒数が少なくなっているのであれば、少人数に充実した教育体制を整えるチャンスともいえるのではないか
複式学級にならなければ現状のままで
全学年 1～2クラスくらい
1クラスで6年間の良さも感じるし、3クラス以上でクラス替えができる良さもあるので何とも言えない
多いほうが良いと思うが、最低でも2クラス以上が望ましい
各学年2クラス以上が望ましい
クラス替えのできるように2クラス
現状のままで

(中学校)

クラス替えができる 1学年 4～5組
1学年 5～6組位
現状のまま
1クラス30人前後の生徒数
複式学級にはならないようにしてもらいたい
中学生の子供がいないので想像になりますが、各学年、目が行き届く人数でのクラス数が良い
1学年5～7クラス程度 1～4小と立川小を考えれば、この位になるのでは。現状バス通も有るので1つの中学でも良いのでは
各学年クラス替えができる教室数があればいいと思う
各学年4クラス位
1クラスで6年間の良さも感じるし、3クラス以上でクラス替えができる良さもあるので何とも言えない
自分が中学生の時は6クラスあり、良い印象があった。
クラス替えのできるように2クラス

【設問2】学校の統合は必要だと思いますか？

(①はい)

小学校での目のとどく授業も良いと思うが、統廃合によるクラス替え、スポーツ等大人数での生活を望みます。
クラス替えの機会がない。部活の選択肢が限定
子どもの減少に伴い、4小と立川小を一緒にしてみるのもありかも。十数名しかいないクラスがあるよりは、大勢で勉強したり、一緒に学ぶ事がいろいろと子供にとって必要になる。スクールバスは両校使用している。公民館等はそのままする。1小から3小はそのままが良いと思う。中学校に関しては現状のままでも良いのでは。
中学校はそのままでも良いかなと思う。案1：小学校と幼稚園も四小学区を立川学区に統合するのはどうか。案2：余目一つの小学校 案3：余目2つの小学校 幼稚園もトイレ他、設備が古く(和式トイレが出来ない)排セツも出来ない子がいることから、新設備を考えた統合。建物が古く”こわい”イメージをもつ。余目2つの幼稚園、狩川と4幼で1つなど
子どもの数が減っていくことで様々な考えを持った人との出会いがへるので、多くの出会いをしてもらいたい。
平成18年から生徒数は令和42年で約半数になるので、現状のまま全て計画対象にするのは合理的ではない、部活、スポ少等の仕組みが成り立たないのではないかと。4学区→2学区に、立川小と四小など再編は必須ではなかろうかと思えます。また、長寿命・新築とコストが変わらないのであれば、再編し学区に新しい小学校を建てた方が良いのではないだろうか。
この町の規模に合った校舎が必要
地域性や地理的な問題はあるものの、今後の児童・生徒数の推移から考えれば、学校数は多い状況。適正配置とはいえない
生徒数の減少と校舎の老朽化のため、将来を見すえて統廃合は必要だとも思います。
児童数減少で行事や授業に盛り上がりにかける感じがする。競争心がさがる。
子どもの数だけでなく、町民の減少も視野に入れると、将来的に考えると統廃合が必要かと思う。
少子化によって生徒数が減少して、現状では複数のクラスが難しいのではないかと。学校の老朽化や建て替えの費用を減らす
少子化による児童・生徒数の減少。施設の有効活用
狩川保育園の場合、立川地区と余目地区の園児が集まっているが、幼稚園に上がった際にそれぞれの学区で進級するため、園児が少なくなる。中学校まで見据えれば、統廃合は必要と考えます。立川小と余目四小は統合すべき

(②いいえ) 回答なし

(③わからない)

町の財政を考えれば、(統廃合も)必要なかと思いますが、いい学校を作ること考えれば、今のままでもいいと思います。2060年の建て替えを考えると、ここまでは小学校で730人。5校体制が維持できるのではないかと。(単純に5で割ると1校150人。学年25人クラス)
少子化で子供が少なくなる中で、やはりクラス替えの経験や活動をしてほしい想いがあります。ただ大好きな○学区が○学区でなくなるとさみしいという思いもあります。今の時点でどちらがいいかわかりません。

【設問3】あなたが描く学校像（規模・配置等の視点から）

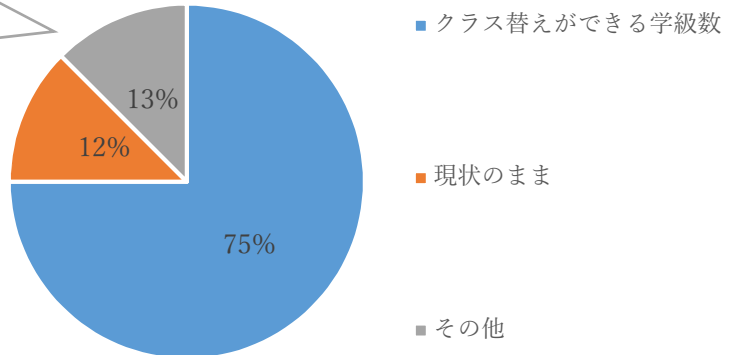
将来、子供の人数の減少が進んでいくことから、大規模な学校統合、学区再編が必要だと思いません。
統合により各学校の人数がほぼ同じくらいの規模になればいいと思います。
余目に1つの小学校（1，2，3小を1つに統合、4小と立川を1つに統合）
中学校は余目、立川を1つに統合
子どもたちの将来を考え、大規模な学校統合
時代に合った学校設備
余目地区の小学校数は多いと思うので庄内町全体としての小学校数を3校などに考えてみるといいと思います。
幼稚園、小学校・学童保育を同じ敷地、建屋で管理できれば良いかなと。マンモス校の様な大きい施設で、生徒数が多ければ児童の活動も活発になるのでは。また生徒数に対しクラスあたりの人数も少なくし、先生の負担を少なくし、教育の充実を図ればと思います。車社会の現状でバス通を活用すれば、通学距離は大きなリスクにはならない。スポ少等の形が保てないので統合はできるだけ大きな規模が望ましいと思います。
将来を見据えた大規模な学校統合
理想は地域とともにある学校というのが、子供たちの成長にも有益と思う。現実的には校数の減少は必要かと。クラス替えがあることでよろしくない弊害も緩和されるケースもある。
集団の中で、人間性を育てていくことができる学校（小規模校のメリットあるが）
小学校は2校（350人位）、中学校は1校（350人位）
地域との関わりが重要になっていくので話し合いを重ねて方針を定めていかなければならない。
現在の地域で区切ると将来的に児童数（人口も）減少で難しいかと思う。庄内町として広く考えていく必要があると思う。
庄内町で小・中一貫か小学校1つ、中学校1つ 配置については今の四小学区あたりかと・・・
余目、立川地区の中間あたりに小・中一貫校をつくるのもありではないか
生徒がいろんな選択肢を選べる環境が望ましい（学校行事や部活等も含めて）
小学校に近くの学校どおしを1つの学校へ統合（2校、3校統合とか・・・）
中学校は2校が望ましいのでは・・・話にもあった庄内町は南北に長い。現在の余目・立川の2校でよいと思う。
それぞれの学校に歴史、伝統がある為、その地区毎に学校は必要と思います。ですが人口減少の中で全てを今まで通り行える訳ではないと思います。
地域とともにあり、小さくても生き生きと学べる学校（子どもの学びを最優先に考えると、人数を多くする意味はあまりない。子供を育てる学校づくりを中心に考えていきたい。幼、小、公民館の連携を庄内町の特徴として残していきたい。
地域の方々、卒業生たちと共につくる特色ある学校（特色の内容までは思いつきませんが）現在の小学校、幼稚園、公民館があり地域と共にある学区はとても良いと思う。（私の地元にないで）

【設問4】本検討会への要望

会議で挙手して質問するのはしにくいので、アンケートで意見を求める事はとても有難いです。
できるだけ統合は進めていただければ、合理的でさびしい小学校生活にならないのではと思います。
この委員会の意見をもって保護者全体の意見と思われると心苦しい面も……。その点を配慮いただきたい。
町の予算の中で学校施設にかかる予算がどのくらいなのかわからないので示していただきたい。
楽しくできればと思います。
分科会等で班分けして、話しやすい環境にしてもらいたい。
10年先、20年先を見据え地域の意見を取り込んだ話し合いにしていきたい。
今後、検討委員会の声、みなさんの考えが広報等を通じて町民の方々に伝えながら進められると良いと思う。

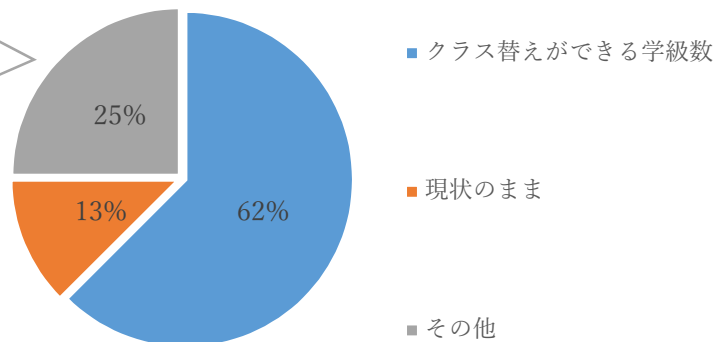
〔設問1〕子ども達にとって学校の学級数はどれぐらいが望ましいと思いますか？（小学校）

- ・幼稚園から1クラスなら、そのまま1クラス
- ・複式学級にならないようにしてほしい 等

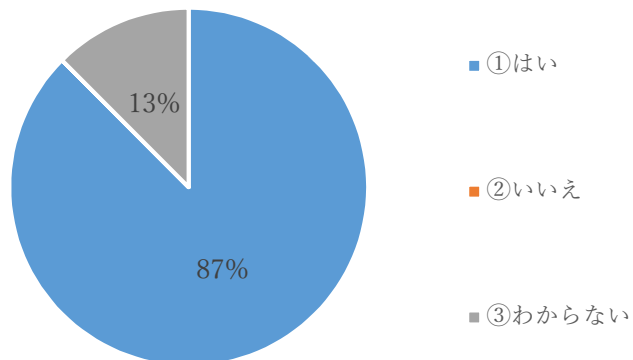


〔設問1〕子ども達にとって学校の学級数はどれぐらいが望ましいと思いますか？（中学校）

- ・複式学級にならないようにしてほしい
- ・目の行き届く学級数
- ・1クラスの良さ、クラス替えの良さ両方ある



〔設問2〕学校の統合は必要だと思いますか？



〔Aグループ〕 テーマ：統廃合せずに現学校数を維持

1. イメージする学校のすがた

	小学校	中学校
校数	5校	2校
全校人数	100～180人	余目中324人 立川中69人
学年学級数	1学級	余目中3学級 立川中1学級
1学級人数	15～30人	余目中30～40人 立川中23人
学校所在地	現在地	現在地
校舎	1小・3小は改築	現在の校舎を利用
その他	幼稚園、学童とのつながりも考慮する	—

2. グループワークの観点

観 点		メリット	デメリット
1	学習環境	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数で質の高い学習 ・一人一人がリーダーや役割を務める機会が多くなる 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な物の見方や考え方、表現の仕方に触れる機会が少ない
2	2-1 生活環境 一人一人にいきとどく	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係が構築されたなかで活動できる ・細かく一人ひとりに目が行き届く 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス替えがなく友達関係が固定化してしまう
	2-2 生活環境 学年集団づくり 切磋琢磨	<ul style="list-style-type: none"> ・意見や感想を発表できる機会が多くなる ・踏み込んだ意見交換ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活の選択肢が狭い ・クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない
3	3-1 人間関係 安心できる	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢の学習活動を組みやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・進学等の際に大きな集団への適応に困難を来す可能性がある
	3-2 人間関係 切り替えできる	<ul style="list-style-type: none"> ・深い友達関係が築ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス替えができない ・人間関係でつまずくと切り替えが難しい
4	通学	<ul style="list-style-type: none"> ・近くて利便が良い 	<ul style="list-style-type: none"> ・集落によっては、子どもの数が少なく徒歩通学の班編成が組めない可能性がある
5	費用 (新築・改築・修繕・スクールバス)	<ul style="list-style-type: none"> ・徒歩通学が維持され、大規模な統合に比べスクールバスの委託費用が軽減できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・費用が大きい ・新しい学校を複数建替えるコストがとても大きい

6	地域との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に見守られていると感じる ・知らない人がいないくらい、お互いに声をかけあって生活している ・特に合併前の旧町の形をとどめており、文化や歴史の継承につながっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校では、2校の規模がアンバランスである
7	教師の負担	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1人の学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導が行いやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員1人当たりの校務負担や行事に関わる負担が重く、校内研修の時間が十分確保できない
8	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・庄内町の良さ、特色を守っていく 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA 役員のなり手が少ない

3. 考察

(1) この案の特徴（特に際立つ良さ・課題）

- ① 庄内町の良さを守っていく。地域、学区とのつながりを大切にする。(○)
- ② 少人数ならではの教育、例えば何かに特化した教育ができると思う。(○)
- ③ 人と人とのつながり、地域のつながりを感じる教育ができる。(○)
- ④ 話し合いがスムーズに進むと思う。(揉めずに済む) (○)
- ⑤ 統合になるといつも四小学区が標的になってくる気がする。(過去にも) (△)

(2) 課題改善のために考えられるオプション・工夫

- ① 小学校はそのまま大丈夫。
- ② 中学校は部活のあり方を再検討しなければならない。
- ③ 立川地域の小中学一貫校もあり。
- ④ 施設の複合化や今ある施設を最大限活かすことで経費を抑える必要がある。

4. 参加者の感想

(1) グループワーク 2 回目

- ① グループワークに一人しか参加者がいなくて寂しかった。
費用面を考えると、存続・維持は難しいと思うが、何とか維持をお願いしたい。

〔Bグループ〕 テーマ：小学校1校と中学校1校への統廃合の検討結果

1. イメージする学校のすがた

	小学校	中学校
校数	1校	1校
全校人数	752人	393人
学年学級数	3学級	5学級
1学級人数	25～33人	25～33人
学校所在地	—	余目
校舎	新築	現在の校舎を利用
その他	—	—

2. グループワークの観点

観 点		メリット	デメリット
1	学習環境	<ul style="list-style-type: none"> ・多人数学級がなくなる ・教師の負担が減る ・多様な意見に触れさせることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・係や役割分担のない子供が現れる可能性がある ・一人一人が活躍する場や機会が少なくなる場合がある
2	2-1 生活環境 一人一人にいきとどく	<ul style="list-style-type: none"> ・指導上課題のある児童生徒を各学級に分けることにより、きめ細かな指導が可能となる 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の個性や行動を把握することが困難となり、問題行動が発生しやすくなる
	2-2 生活環境 学年集団づくり 切磋琢磨	<ul style="list-style-type: none"> ・学級同士が切磋琢磨する環境をつくることのできる 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団生活において同学年の結びつきが中心となり、異学年交流の機会が設定しにくくなる場合がある
3	3-1 人間関係 安心できる	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな人間関係を構築する力を身につけさせることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・同学年でもお互いの顔や名前を知らないなど、児童生徒の人間関係が希薄化する場合がある
	3-2 人間関係 切り替えできる	<ul style="list-style-type: none"> ・友達が増える ・クラス替えを契機として児童生徒が意欲を新たにすることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲の良い友達と別のクラスになり気持ちが不安定になる
4	通学	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールバスが多くなり、徒歩通学の事故リスクが軽減される 	<ul style="list-style-type: none"> ・距離が遠くなる (瀬場からの距離が33kmもある)

5	費用 新築・改築・修繕・ スクールバス	・22～26 億 (1校だけの新築なので経 費が安くすむ) (豪華な校舎ができる)	・スクールバスの委託費用が増 える ・面積が広く土地の選定が難し い
6	地域との関わり	・小学校を1校にすることによ り、学区編成を維持したまま の統合が可能となる (放課後や休日は地域での 受け入れ体制を確保する必 要あり)	・地域との関わりが薄れる ・地域の拠点がなくなってい まう
7	教師の負担	・学級の枠を超えた習熟度別指 導や学年内での教員の役割 分担による専科指導等の多 様な指導形態をとることが できる	・学校運営全般にわたり、校長が 一体的なマネジメントを行っ たり、教職員が十分な共通理 解を図ったりする上で支障が 生じる場合がある
8	その他	・子どもたちは新しい校舎に入 れる ・部活の選択肢が増える	・PTA活動が他人任せになる ・部活動中心の保護者関係が強 くなる

3. 考察

(1) この案の特徴 (特に際立つ良さ・課題)

- ① 小中連携しやすい…町の教育方針がとどく。(○)
- ② 視野が広がる…子ども達が町全体をよく知る。(○)
- ③ 友達が増える。(○)
- ④ 費用がかからない。(○)
- ⑤ 通学距離、時間が長い、不利益感。(△)
- ⑥ 地域との関わりが薄れる…地域の拠点が無くなる。(△)

(2) 課題改善のために考えられるオプション・工夫

① 通学

- ・冬期間だけの分校制にする。
- ・スクールバスを小型化、台数増にして、運行路線が1本でなく「各地域⇄学校間」で複数運行させる。
- ・道路整備で通学時間(バス乗車時間)の短縮。
- ・バス通学は途中でトイレ休憩出来るように。
- ・バスの中で有意義な活動をする。(英会話など)

② 地域

- ・学校では勉強する、地域に帰ったら公民館活動をして生活にメリハリをつける。
- ・放課後などは地域(高齢者の方々など)で子ども達を預かる。
- ・学校では意識して地域の学習をする。

- ・運動会は地域ごとに開催する。
- ・学童、放課後子ども教室の実施。
- ・コミュニティスクールにより地域とのつながり等を充実させる。

4. 参加の感想

(1) グループワーク 1 回目

- ① 集団づくりができる良さがある。
- ② 部活ができる種目が増える。
- ③ 小学校は2校と考えている。
- ④ 中学校はこのまま2校が良い。
- ⑤ 小学校2校であれば通学の課題は解決される。
- ⑥ 子どもの人数が減るので統廃合は仕方ない。
- ⑦ 通学距離が遠くなるのは大変だと思う。

(2) グループワーク 2 回目

- ① 子ども達の数が減っている現状、校舎の耐用年数等を考えた時に、合併はさげられないと思います。立川小、余目四小を合併と言う案もありますが、当事者、地域の方達は、小学校1校の方が納得できるのではないかと思います。通学距離の問題もありますが、新しい校舎で勉強できるという事と新しい友達ができる等プラス思考で考えてもらいたい。
- ② 小中連携しながら町子ども達を育てることができて良い。大きな集団の中で、より良い人間関係をつくっていくことができる。少子化をメリットに替える。地域と学校が連携しながら子ども達を育てていく。
- ③ 少人数の学校ではなく、大人数の学校生活を子ども達がおくっていくために、小中各1校にすることがいいと思う。小中一貫校による小中の交流も含めた学校生活は良いと思う。10年後の子どもの数の少なさに改めて考えさせられた。
- ④ 小学校1校と中学校1校への統廃合を検討する際、学校を町を中心に建設して小学校と中学校が連携できれば良いと思います。そして公民館をコミセン化にすれば地域との関わりが薄れることもなくなるのではないかと思います。小学生も全員クラブなどに入れて、週に何回か活動できれば良いと思う。
- ⑤ 地域との関わり、通学距離と通学時間を工夫すれば可能なのではと思った。建てる場所も重要な課題になってくるのではないか。
- ⑥ 学区が統合されるという変わり目に、地域のコミセン化という変わり目をうまく活用することができれば、「子ども達のかかわり+大人のかかわり」が今よりも多くなるのではないかと思います。大きな節目になるこの先、後ろ向きになることなく前向きな考え方を、みんなが持つことができるような雰囲気醸成がとても大切だと思います。

〔Cグループ〕 テーマ：4小と立小の統合、1小2小3小の統合検討

1. イメージする学校のすがた

	小学校		中学校		
校数	2校		1校 or 2校		
全校人数	立小・4小 235人	1小2小3小 517人	立中 75人	余中 375人	立中余中 450人
学年学級数	9学級	18学級	3学級	12学級	15学級
1学級人数	・学年2クラス以上の場合 20人前後のクラスが多い ・学年1クラスの場合40人 前後のクラスが多い		25人前後	30人前後	30人前後
学校所在地	立小・4小 立川小学校 へ	1小2小3小 新しい場所 の選定	既存所在地	既存所在地	余目中学校 へ
校舎	規模を含め 立川小学校 を使用する	新築が必要	既存校舎	既存校舎	既存の余目 中学校を長 寿命化改修 し使用する
その他	—	—	—	—	—

2. グループワークの観点

観 点		メリット	デメリット
1	学習環境	・1小2小3小は複数学級となるため、さんさんプランにより23人から30人程度の理想的なクラス編成が可能になる	・立小4小は単学級が残るため、数年後には統合前と同じ状況になってしまう
2	2-1 生活環境 一人一人にいき とどく	・少人数のクラス編成が可能になれば、先生の目が行き届きやすくなる	・立小4小は多人数単学級となる
	2-2 生活環境 学年集団づくり 切磋琢磨	・複数学級になることにより遅くなる	・立小4小は単学級のため、それほどメリットはない
3	3-1 人間関係 安心できる	・学年全員の顔がわかる程度の人数なので、学年の一体感がある	

	3-2 人間関係 切り替えできる	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス替えにより人間関係がリセットできる ・不登校傾向にある子もリセットされる 	<ul style="list-style-type: none"> ・立小4小はクラス替えがない
4	通学	<ul style="list-style-type: none"> ・1校統合に比べ立谷沢地区の通学負担が軽減される ・余目地域については、人口の多い地域に学校を設置することで、通学距離が全体的に短縮される 	<ul style="list-style-type: none"> ・余中、立中が統合し、施設規模により余中を利用する場合、立谷沢地区（瀬場）から余中まで約32.4kmあるため通学時間の負担がある ・部活動B、C活動の送り迎えの負担が大きい
5	費用 (新築・改築・修繕・スクールバス)	<ul style="list-style-type: none"> ・1小2小3小を新校舎とし、将来的に児童が減少したタイミングで、立小4小を統合し1つの小学校とすることで、新校舎の建設費用を抑えることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・4小は全員通園バスになりスクールバス代がかかる
6	地域との関わり	—	<ul style="list-style-type: none"> ・段階的統合を選択することで、特に立小4小の地域住民の理解を得ることが難しいのではないか
7	教師の負担	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数学級の方が、教師の意思統一がスムーズ ・複数学級だと教師が相談しやすい環境となる 	<ul style="list-style-type: none"> ・立小4小は学級数がかわらないのに、1学級の人数が増えるので負担増になる
8	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・2校の児童数に大きな違いがあるため、特色を生かした学校経営が期待できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・立小4小の統合により、4小の児童が立中に進学することになれば、余中のような部活動の選択ができない

3. 考察

(1) この案の特徴（特に際立つ良さ・課題）

- ① 2校になることで、通学時間の短縮、費用が削減される。(○)
- ② 1小2小3小は、老朽化した校舎を使用せず新しい校舎を使用できる。(○)
- ③ クラス替えによる子供達の関係性のリセットが可能となる。(○)
- ④ スポ少の選択肢が四小、立小が狭くなることへの不満。(△)
- ⑤ 1校になると通学時間が増える。(△)
- ⑥ 2回引越しすることは将来的に不安。(△)

(2) 課題改善のために考えられるオプション・工夫

- ① 段階的統合により持続可能な新校舎の建設費用に留めることが可能
第一弾 1小2小3小⇒新校舎 立小4小⇒立川校舎
第二弾 児童数の減少と新校舎の教室数にあわせ、立小4小が新校舎へ統合する。
- ② バス費用がかかるのでバスを小型化する、タクシーを利用する、小学生と中学生を一緒に乗せる。
- ③ 新校舎との差がでるので、立小はリフォームして設備差を埋める。

4. 参加者の感想

(1) グループワーク1回目

- ① 小学校の統合パターンだけでなく、中学校の統合を考えたため、短時間で議論するには、難しい場面が多かった。次回は、小学校のみに絞った検討とすることが望ましいと感じました。
- ② 4小の子どもたちが立中へ入学する際、「余中の方が部活の選択肢が多く良かった」という不満がでる。ただ、中学校のことを考えなければ1小2小3小は、クラスは増えるが1クラスあたりの人数が減るのでメリットが大きい。

(2) グループワーク2回目

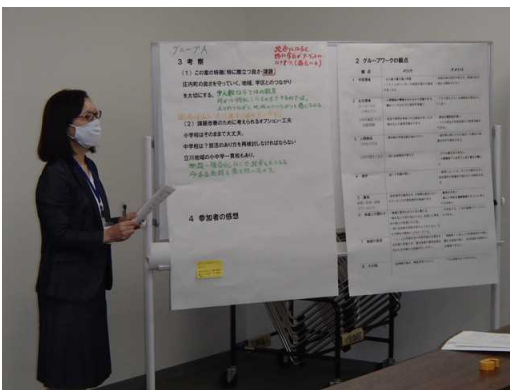
- ① 学校が遠くなると学校に近い場所へ引っ越しする人がでてくる。町内での引っ越しなら良いが、町外に出る場合がある。新設する学校のまわりの土地を宅地用として確保しておけば、そこに引っ越ししてくるのではないか。
- ② 1小2小3小が統合したとしても、特色ある教育をして他市町からも人を呼べるような対策が必要と思う。教育熱心な親は、庄内町の教育が良いとなれば教育を受けさせるために引っ越ししてくると思う。
- ③ 今、地域や庄内町のことを考えて話をしているが、もっと広いことを考える必要がある。町外からも人を呼ぶことを考えないと、人口減少にますます拍車がかかると思う。
- ④ 統合することを優先するとすれば、余目地域として生きてきた者としては、四小も仲間に入れてほしい。
- ⑤ 考える範囲が教育だけでなく、バスや校舎規模による費用等も視野に入ってしまう、まとめるのが難しい。
- ⑥ 2校に分ける事で生じる不公平感は否めない。財政上からすれば何校かの統合はやむなし。
- ⑦ 児童数の状況に合わせて考えていくしかない。今は2校（立小4小と1小2小3小）
- ⑧ 分けるのは難しい。小さくて光る学校が理想。一つにまとめる方が、リスクが小さい。
- ⑨ 考えなければならないことが多く、合併となる学校のことも視野に入れてもらいたい。現状としては2校が望ましい。



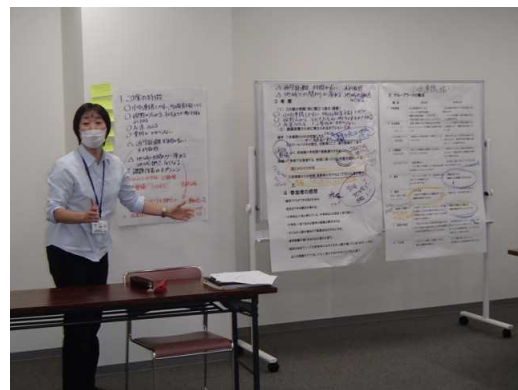
(委任状交付)



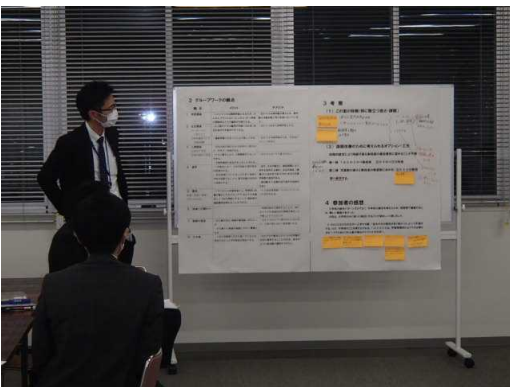
(全体会)



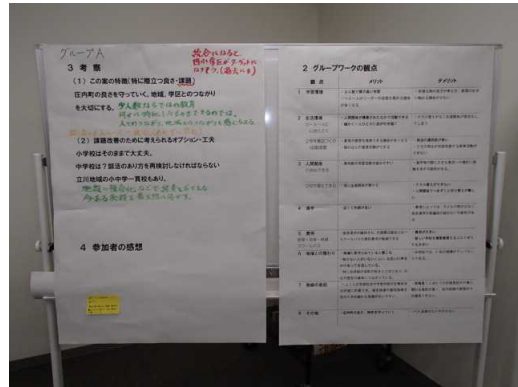
(グループA_発表)



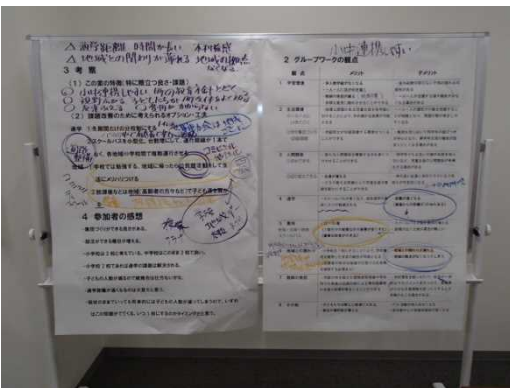
(グループB_発表)



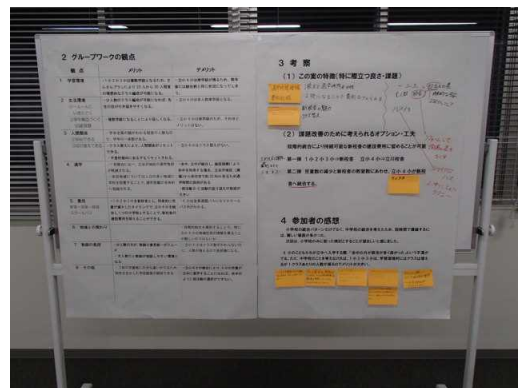
(グループC_発表)



(グループA_検討結果)



(グループB_検討結果)



(グループC_検討結果)

小規模校(現在の町内5小学校・立川中の規模をイメージ)のメリットデメリット

基本的に学年単学級・県費教職員定数13~15人

観 点		メリッ	デメリッ
1	学習環境	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数で質の高い学習 ・意見や感想を発表できる機会が多くなる ・踏み込んだ意見交換ができる ・落ち着いた環境で学習できる ・密を避けることが容易(コロナ対策) 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な物の見方や考え方、表現の仕方に触れる機会が少ない ・行事や集団での学習活動が制約され教育効果が下がる
2	2-1 生活環境 個への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・細かく一人一人に目が行き届く ・家庭や地域の状況がよくわかる 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係が固定化してしまう ・子どもの評価が固定化しがち
	2-2 生活環境 学年集団づくり 切磋琢磨	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人がリーダーや役割を務める機会が多くなる 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない ・部活の選択肢が狭い(中)
3	3-1 人間関係 安心できる	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係が構築されたなかで活動できる ・異年齢の学習活動を組みやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・進学等の際に大きな集団への適応に困難を来す可能性あり ・特定の子の考えが強く影響
	3-2 人間関係 切り替えてできる	<ul style="list-style-type: none"> ・深い友達関係が築ける ・互いに慣れ親しんだ中で生活できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス替えができない ・人間関係でつまずくと切り替えが難しい
4	通学	<ul style="list-style-type: none"> ・徒歩で通える子どもが多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・集落によっては、子どもの数が少なく徒歩通学の班編成が組めない可能性がある
5	費用	<ul style="list-style-type: none"> ・徒歩通学が維持され、大規模な統合に比べスクールバスの委託費用が軽減できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校数が多く、改築費用やランニングコストが割高になる
6	地域との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携がしやすい ・地域の核としての存在意義 	<ul style="list-style-type: none"> ・学区の範囲が狭くなる
7	教師の負担	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1人の学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導が行いやすい ・力量のある教師であれば、小回りが利いて多様な活動が可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員数減により経験年数、専門性、男女比等バランスの取れた配置と指導に充実に困難 ・教職員1人当たりの校務負担や行事に関わる負担が重い ・教員個人の力量に依存 ・教員の切磋琢磨、指導技術の伝達が困難。若手の校内研修の機会が限定 ・免許外指導教科が生まれる(中) ・部活動指導者確保が困難(中)
8	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の良さ、特色が守れる ・保護者が互いに分かり合った中で活動できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA役員のなり手が少ない負担が大きい

中規模校(現在の余目中の規模をイメージ)のメリット・デメリット

学年5学級(全校15学級)・県費教職員定数36名程度

観 点		メリッ	デメリッ
1	学習環境	<ul style="list-style-type: none"> ・多人数学級がなくなる ・多様な物の見方や考え方、表現の仕方に触れさせることができる ・行事や集団での学習活動がダイナミックとなり、達成感や教育効果が得られやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・係や役割分担のない子供が現れる可能性がある ・一人一人が活躍する場や機会が少なくなる場合がある ・多人数での環境となり、静寂や1人当たりの空間が少なくなりがち ・密を避けるのが困難(コロナ対応)
2	2-1 生活環境 一人一人にいきとどく	<ul style="list-style-type: none"> ・指導上課題のある児童生徒を各学級に分けることにより、きめ細かな指導が可能となる 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の個性や行動を把握することが困難となり、問題行動が発生しやすくなる
	2-2 生活環境 学年集団づくり 切磋琢磨	<ul style="list-style-type: none"> ・学級同士が切磋琢磨する環境をつくることできる ・部活動の選択肢が多い(中) 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団生活において同学年の結びつきが中心となり、異学年交流の機会が設定しにくくなる場合がある
3	3-1 人間関係 安心できる	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな人間関係を構築する力を身につけさせることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・同学年でもお互いの顔や名前を知らないなど、児童生徒の人間関係が希薄化する場合がある
	3-2 人間関係 切り替えてできる	<ul style="list-style-type: none"> ・友達が増える ・クラス替えを契機として意欲を新たにすることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲の良い友達と別のクラスになり気持ちが不安定になる ・単学級から急に多学級になり、中1ギャップが大きくなる
4	通学	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールバスが多くなり、徒歩通学の事故リスクが軽減される 	<ul style="list-style-type: none"> ・距離が遠くなる ・時間が長くなる
5	費用	<ul style="list-style-type: none"> ・学校数が少なくなり、改築費用やランニングコストが抑えられる。 ・校数が抑えられれば、設備などを充実させられる 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールバスの委託費用が増える ・歩かないため体が弱くなる。
6	地域との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・学区の範囲が広がる 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との関わりが薄れる ・地域の拠点がなくなってしまう
7	教師の負担	<ul style="list-style-type: none"> ・学級の枠を超えた習熟度別指導や学年内での教員の役割分担による専科指導等の多様な指導形態をとることができる ・学年団を組織することで、研修や協働がしやすい。人材育成が進む 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営全般にわたり、校長が一体的なマネジメントを行ったり、教職員が十分な共通理解を図ったりする上で支障が生じる場合がある
8	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA活動の負担が小さい 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA活動が他人任せになる ・部活動の保護者関係が中心になりがちである

〔Aグループ〕 テーマ:統廃合せずに現学校数を維持

1. イメージする学校のすがた (人数は小学校 6 年後、中学校 10 年後の見込みで試算)

	小学校	中学校
校数	5 校	2 校
全校人数	112~176 人	余目中 328 人 立川中 67 人
学年学級数	ほぼ 1 学級	余目中 4 学級 立川中 1 学級
1 学級人数	15~30 人	余目 30~40 人 立川 16~28 人
学校所在地	現在地	現在地
校舎について	一小・二小・三小は 改築 立小・四小は 長寿命化 約 60 億 <small>※解体費は含まず</small>	現在の校舎を利用 長寿命化 (余中 15.5 億 立中 7.5 億) 約 23 億
	約 83 億円 実質町負担 約 30~65%	
バス通学	通年運行 9 台 + 冬季運行 7 台 児童生徒の約 14%	児童生徒の約 41% <small>※R2年度人数で試算</small>
	約 5,000 万円	

2. この案の特徴 (特に際立つ良さ・課題)

	ポイント	課題解決のための工夫
良さ	1 庄内町の良さを守れる。地域、学区とのつながりを大切にできる	
	2 少人数ならではの教育、地域の教材や人材を活かし、特化した教育ができる	
	3 話し合いがスムーズに進む。	
課題	1 改築と維持の費用が膨大 費用を抑えるため設備を節約せざるを得ない	・施設の複合化や今ある施設を最大限活かすことで経費を抑える必要あり
	2 小学校は改築される学区と長寿命化して現校舎を使う学区とが生じ不平等感がある	
	3 中学校の規模がアンバランス 現在の各校の課題が改善されない (余目: 中 1 ギャップ 立川: 部活動選択肢)	・余目地域の小中連携を進める ・部活動の在り方を変える必要あり
	4 将来的に児童数が減少し、複式を避けて統合した場合、借金だけが残る可能性がある	・見通しと納得が必要

3. その他考えられるオプション等

- ①立川地域の小中一貫校

〔Bグループ〕 テーマ:小学校 1 校と中学校 1 校への統合

1. イメージする学校のすがた（人数は小学校 6 年後、中学校 10 年後の見込みで試算）

	小学校	中学校
校数	1 校	1 校
全校人数	719 人	395 人
学年学級数	3～4 学級	4 学級
1 学級人数	25～33 人	25～33 人
学校所在地	未定	（余目）※校舎規模から
校舎について	1 校を新築 約 33 億 <small>※解体費・土地代は含まず</small>	現在の校舎を利用 長寿命化 約 15 億 <small>※解体費は含まず</small>
	約 49 億円 実質町負担 約20~40%	
バス通学 <small>（小学校所在地を、役場付近と仮定して試算）</small>	通年運行 12 台 児童生徒の約37%	+ 冬季運行 10 台 児童生徒の約47%
	約 6,900 万円 <small>※R2年度人数で試算</small>	

2. この案の特徴（特に際立つ良さ・課題）

	ポイント	課題解決のための工夫
良さ	1 小中連携しやすい。	
	2 子どもたちが町全体をよく知る	
	3 切磋琢磨する環境、クラス替えができる	
	4 費用が少なく済み、充実した施設ができる	
	5 すべての小学生が新しい校舎で学べる、どの地区にも学校が残らないという点で平等感がある	
課題	1 立川地域の子どもの通学距離、時間が長くなるという点で不平等感がある	<ul style="list-style-type: none"> 途中でトイレ休憩をとる バスの中で有意義な活動（英会話・読み聞かせ等）をする
	2 バス通学の子どもが増え、体が弱くなる	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画に体力づくりの対策を
	3 地域の拠点がなくなり、地域とのつながりが薄れる	<ul style="list-style-type: none"> 学校で意識して地域の学習をする。（地区ごとの活動の時間を設ける等） 放課後活動や学童は地区に帰す
	4 最大の規模で設計するため、数年後に普通教室が空いていく可能性がある。	<ul style="list-style-type: none"> 見通しを持った設計

3. その他考えられるオプション等

- 学校以外の地域の拠点を設け、連携して子どもを育てる。
放課後は地域（高齢者の方々など）で子ども達を預かる。（学童保育・放課後こども教室）
学校では意識して地域の学習をする。（週に 1～2 時間地域に分かれて学習や活動する等）

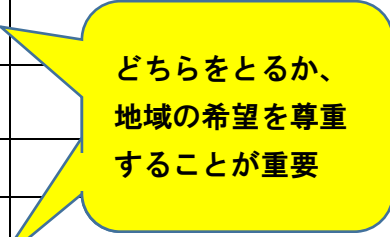
[Cグループ] テーマ:小学校を2校に統合① ※中学校については別に考える

1. イメージする学校のすがた (人数は小学校6年後、中学校10年後の見込みで試算)

		小学校	
校数	2校		
全校人数	立小 112人	一小+二小+三小+四小 607人	
学年学級数	1学級	3~4学級(全22学級)	
1学級人数	14~28人	25~30人	
学校所在地	立川小	未定	
校舎について	現在の校舎を長寿命化 約9億	1校を新築 約31億 <small>※解体費・土地代は含まず</small>	
	約40億円 実質町負担20~40%	+ 中学校16億または23億 実質町負担20~27%	
バス通学 <small>(余目の統合小は、役場付近で試算)</small>	通年運行10台 児童生徒の約27%	+	冬季運行11台 児童生徒の約41% <small>※R2年度人数で試算</small>
	約6,600万円		

2. この案の特徴 (特に際立つ良さ・課題)

☆小規模校と中規模校のよさと課題が混在する。立川地域の住民の希望が重要。

		ポイント	課題解決のための工夫
良さ	1	立川地域に学校が残り(旧立川町が学区)、旧町の文化を継承できる	
	2	現在の中学校区となり、地域住民の抵抗感が少ない	
	3	改築の費用は若干軽減できる	
	4	1校統合に比べ立谷沢地区の通学負担が軽減	
課題	1	立川小のみ古い規準の学校という点で不平等感がある	・リフォームして差を少なくする(費用は増となる)
	2	2校の規模がアンバランス。(立川はやや少な過ぎ、余目は多過ぎ)	・特色ある学校経営と、地域の理解が必要
	3	余目地域では、拠点としての学校がなくなり、地域とのつながりが薄れる	・学校で意識して地域の学習をする。(地区ごとの活動の時間を設ける等) ・放課後活動や学童は地区に帰す
	4	立小が将来的に統合するなら長寿命化にかかる費用が無駄になる。(統合後学校がなくなっても借金を返し続けなければならない可能性)	・見通しと納得が必要

3. その他考えられるオプション等

- ①中学校はAの2校、Bの1校のどちらかをとる。
- ②中学校2校の場合、立川小中を一貫校にするオプションもあり。
- ③将来児童数が減少したら、複式にならないよう1校に統合というオプションもあり。

〔Dグループ〕 テーマ:小学校を2校に統合② ※中学校については別に考える

1. イメージする学校のすがた (人数は小学校6年後、中学校10年後の見込みで試算)

		小学校	
校数	2校		
全校人数	立小+四小 227人	一小+二小+三小 492人	
学年学級数	1~2学級 (全9学級)	2~3学級 (全17学級)	
1学級人数	16~34人	28~33人	
学校所在地	立川小または四小 (立小で試算)	未定	
校舎について	現在の校舎を長寿命化 約9億 <small>※解体費は含まず</small>	1校を新築 約26億 <small>※解体費・土地代は含まず</small>	
	約35億円 + 中学校16億または23億 実質町負担約20~40% 実質町負担20~27%		
バス通学 バス通学 (余目地区の統合 小は役場付近と して試算)	通年運行10台 児童生徒の約27%	+ 冬季運行11台 児童生徒の約41%	<small>※R2年度人数で試算</small>
約6,600万円			※中学校含む (中2校で試算)

2. この案の特徴 (特に際立つ良さ・課題)

★数あわせとしては利点があるが、総合的にメリットが少ない案

		ポイント	課題解決のための工夫
良さ	1	学年2~3学級が多く、人数バランスがよい。	
	2	改築の費用は多少軽減できる	
	3	1校統合に比べ立谷沢地区の通学負担が軽減	
課題	1	余目一~三学区は課題がほぼ解消され、新校舎で学べるのに対し、余四立川は数年で1学級となり、課題が改善されない。不平等感大きい。	・住民の希望と納得が必要
	2	統合される側の学区の不満が大きい。	
	3	余四立川は学区が旧町とも現学区とも異なる線引きで、地域としてまとまりが得られにくい。	

3. その他考えられるオプション等

- ① 中学校はAの2校、Bの1校のどちらかをとる。
- ② 中学校2校の場合、立川小中を一貫校にするオプションもあり。
- ③ 将来児童数が減少したら、複式にならないよう1校に統合というオプションもあり。

[Eグループ] テーマ:小学校を3校に統合

※中学校については別に考える

1. イメージする学校のすがた (人数は小学校6年後、中学校10年後の見込みで試算)

		小学校		
校数	3校			
全校人数	立小 112人	四小 115人	一小二小+三小 492人	
学年学級数	1学級	1学級	2~3学級 (全17学級)	
1学級人数	14~28人	16~26人	28~33人	
学校所在地	現在の位置		未定	
校舎について	現在の校舎を長寿命化 約17億 <small>※解体費は含まず</small>		1校を新築 約26億 <small>※解体費は含まず</small>	
	約43億円 実質町負担 20~40%		+ 中学校16億または23億 実質町負担 20~27%	
バス通学 (余目地区の統合 小は役場付近と して試算)	通年運行10台 児童生徒の約19%		+ 冬季運行9台 児童生徒の約39%	
	約6,000万円		※R2年度人数で試算 ※中学校含む (中2校で試算)	

2. この案の特徴 (特に際立つ良さ・課題)

		ポイント	課題解決のための工夫
良さ	1	改築の費用は若干軽減できる	
	2	立谷沢地区の通学負担が軽減	
	3	余目四学区の不満が少ない可能性がある	※地域住民全体の希望が必要
課題	1	余目一~三学区は課題がほぼ解消され、新校舎で学べるのに対し、余四立川は1学級のまま。不平等感がある。	
	2	A案ほどではないが、費用負担が大きい。	
	3	将来的に統合するなら無駄が大きい。 (統合後も借金を返し続けなければならない)	・見通しと納得が必要

3. その他考えられるオプション等

- ① 中学校はAの2校、Bの1校のどちらかをとる。
- ② 中学校2校の場合、立川小中を一貫校にするオプションもあり。
- ③ 将来児童数が減少したら、複式にならないよう1校に合併というオプションもあり。